



かみじまつねお

ぶんえ

ぶんえ

かみじまつねお



むかしむかし あるむらに
ざさぶろうという はたらきものの
わかものが ありました。



むらの むこうの
やまには、コシという
こぎつねが
すんでおりました。



ある あきのひ、ざざぶろうは やまへ きのことり
いきました。すると、あしを けがしたこぎつねが
たおれていました。
「りゃあ、ひどい きずだ。」





なんにちかして こぎつねの けがは
すつかり よくなりました。
ざさぶろうは、こぎつねを やまに
かえしてやりました。



そして けんめい に てあてを してやりました。



ざさぶろうは、こぎつねを だきかかえて
いえへ とんでかえりました。

コンは、じぶんを たすけてくれた
ざさぶろうのことが だいすきに
なつてしまいました。



ざさぶろうの およめさんに
なるため、コンは にんげんの
すがたにばける れんしゅうを
はじめました。
けれども、どうしたことが

なんとやつても
かおだけは きつねのまま。
にんげんに ばけることが
できません。





コンや、きつねというは、にんげんを だまそう
といつきもちであれば うまく ばけることができる。
だがな、おまえは ざさぶろうを だまそうとして
ばけるのではない。

ざさぶろうのことが すきで
ばけようとしておる。
じゅんすいな こころは
かおに のこつてしまっんじや。」

コンは、 なきながら やまのかみさまのところへ いきました。
すると、 かみさまは やさしく コンに いいました。



コンのめから
おおきな
なみだが
ぼろぼろ
こぼれおちました。
おおきな
なみだは
とまりません。



こまりはてた かみさまは、ざざぶろうのところへ いき、
いちぶしじゆうを はなしました。

ざざぶろうや。きつねの
コンは、おまえのことが
こころから すきなんじや。
コンを よめさんにして
はくれまいか。」





こうして コンは
 ざさぶろうの
 およめさん
 になりました。
 ふたりは、
 いつまでも
 しあわせに
 くらしましたとき
 めでたし めでたし。



「
 . . .
 コンが、そこまで おらの
 ことを すきだつて いつて
 くれてるなら おらは
 コンを およめさんに
 もらうだ。」



きつねの よめいり
こん こん こん
コンちゃん
きつねが
だいすきで
いつも おめんを
かぶってる



まきぶらとコン
2016年10月25日